

皮膚科

皮膚科部長 掛水夏恵

茅ヶ崎市立病院皮膚科は2005年4月より掛水が、2008年4月から新しく赴任した黒木、松山と3人で診療に当たっております。

皮膚科の病気には次のようなものがあります。

- ① 湿疹を中心とした病気
アトピー性皮膚炎・かぶれなど
- ② アレルギーの病気
じんましん・薬疹など
- ③ 真菌感染症
水虫やカンジダなど、
- ④ 細菌感染症
蜂窩織炎(ほうかしきえん)や丹毒(たんどく)など、
- ⑤ ウイルス感染症
水痘(すいとう)や麻疹、帯状疱疹(たいじょうほうしん)など
- ⑥ にきび、しみなど
- ⑦ 皮膚腫瘍
- ⑧ 脱毛、爪の変形など

① 湿疹を中心とした病気
アトピー性皮膚炎をはじめとする湿疹を中心とした病気は、完治は中々難しいですが、悪化要因を避けること、上手に薬を利用することで生活しやすい状態にコントロールができます。また、接触皮膚炎などは、患者さんと一緒に原因を考えて避けることで治すことができます。



- ② アレルギーの病気
じんましんは最近ストレスが多い生活のためか、増えている気がします。悪化要因を考えてもみつからなければ、薬剤で対処していきます。
薬疹は重症だと入院していただくこともあります。たかが薬疹と思うなかれ、原因薬剤を中止しても、進行してしまう場合もあり、死に至ることもあります。薬疹で、特に発熱を伴ったりする場合は必ず皮膚科を受診してください。

③ 真菌感染症
水虫やカンジダなどの真菌感染症に関しては、顕微鏡検査で真菌を確認して治療します。ですが、この分野の表在真菌症に関しては、できるだけ、開業医の先生にお願いしています。

④ 細菌感染症
蜂窩織炎や丹毒などの細菌感染症の治療は、抗生剤の投与が中心です。下肢の蜂窩織炎や顔面の丹毒などは難治化、重症化しやすいので、入院をお勧め

めしています。

⑤ ウイルス感染症

水痘や麻疹は、小児は小児科ですが、成人は皮膚科で診させていただいています。成人の場合は症状が重くなることが多いので、入院となることもしばしばあります。本年3月から4月の麻疹の流行時には、定期的に麻疹の患者さんが入院され、成人麻疹は重症化すると実感しました。

⑥ にきび、しみなど

にきびに関しては一般的な診療と、自由診療扱い（自費）になってしまい健康保険が使えませんが、本年4月からケミカルピーリングをはじめました。ケミカルピーリングは肌のくすみやスキントラブルの原因になる古い角質層を取り除くことで肌の新陳代謝を促し、薄くて滑らかな素肌に整えると同時に、新たな皮膚を作り出すことを可能にした美容法です。にきびにはとても効果的です。

自費でも、行ってみたい方は是非皮膚科の担当医師にお尋ねください。

⑦ 皮膚腫瘍

皮膚腫瘍といっても、良性腫瘍と悪性腫瘍があります。悪性腫瘍には、有棘（ゆうきょく）細胞癌、基底細胞癌、メラノーマ、ボーエン病、乳房外パージェット病など、色々あります。当院ではメラノーマなどの悪性腫瘍は、治療経験や形成外科がないことなどもあり、大学病院などへお願いしています。良性腫瘍、ボーエン病や基底細胞癌は手術を行っています。

⑧ 脱毛、爪の変形など

脱毛や爪の変形に関しては内科的疾患由来のものがあるので、これらを精査し、内科的疾患由来でなければ、外用薬や内服薬などで治療します。脱毛が全身に及ぶ場合や難治例は大学病院へご紹介することもあります。壮年性脱毛には、自費となってしまいますが、フィナステリドという内服薬があります。

本年4月より茅ヶ崎市立病院の外来での投薬が全面的に院外処方になったことから、この薬も当科で処方できる体制を整えることができました。

以上、簡単ではありますが皮膚科のご紹介をさせていただきました。まだまだ暑い折、皮膚疾患の患者さんも多い時期です。今後とも信頼のもらえる皮膚科医療を行っていくよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

